

## グローバル地域研究のネットワーク型共同研究・共同教育体制の構築

### ① ビジョンの概要

世界と地域で生じている諸課題に取り組むため、超域的なネットワークを形成し、DXを活用しつつグローバルとローカルな現象を、時間の流れ、空間の広がりの中で俯瞰的に捉えるグローバル地域研究の基盤を構築する。

### ② ビジョンの内容

今日の世界では、国家間の関係のみならず、国家、国民、コミュニティなど、これまで世界を秩序づけてきた様々な概念が根本から問い直されている。また、地球環境の将来に対する危惧は増大の一途をたどっている。このような世界的な課題に取り組むためには、まず、世界各地で今何が起きているか、人々がどのようなことを考えているのかを注意深く観察し、それを時間の流れと空間の広がりの中で考える必要がある。

地域研究は、長期の観察に基づき、ローカルレベルの現実から世界を理解する営みとして、重要な役割を果たしてきた。しかし、あらゆる面で世界がつながる今日、既存の「地域」にのみ注目して当該地域の基本的性格や構造を解明するだけでは現実を捉えきれなくなっており、今後の地域研究は、グローバルと地域の相互の動的関連性の解明を行う必要がある。

本ビジョンは、グローバル秩序の構築と変容のメカニズムを、諸地域の比較と関連性という視点から明らかにする「グローバル地域研究」を推進し、国際関係のみならず、生態、環境、資源利用、医療など地球規模での課題解決に向けて、人文社会科学と自然科学の分野融合的な研究に取り組むものである。取り組みに当たっては、デジタル技術を活用して、膨大な知的営為の成果を能動的・横断的に活用できる新しいデータサイエンスを開拓する。また、研究者のみならず、世界と地域を広く見渡しつつ国際的に活躍する人材を養成するために、政策立案、国際協力、国際交流、経済活動などの実務などに係わる幅広い人材養成プログラムを構築する。さらに、研究対象となる社会と歩調を合わせた取り組みを行い、開かれた学術の実現を目指す。

かかる事業は単一の大学や研究機関では完結しえない。本ビジョンは、内外の多数の研究拠点、多様なセクターを結ぶネットワーク体制を整え、多分野融合的な研究プログラムに加え、研究や実務に携わる人材養成、社会・国際連携を持続的に進める体制を構築することを目指す。

### ③ 学術研究構想の名称

グローバル地域研究のネットワーク型共同研究・共同教育体制の構築

### ④ 学術研究構想の概要

本構想は、国際秩序の変動や地球環境問題などの課題解決に向けた学術基盤として、グローバル地域研究のネットワーク型共同研究・共同教育体制の構築を目指す。

元来、地域研究は、「地域」を対象に人文社会科学が農学など複数の分野が横断的に研究する融合領域であるが、本構想においては、気候変動、国際秩序の変動、生態、環境、資源、医療、感染症、サイバー空間での諸問題などの課題に総合的に向きあうために、より幅広い分野との連携・協働による研究に取り組む。また、情報学分野とも連携し、デジタル技術を活用して、これまでに蓄積された、また今後蓄積される膨大な知的営為の成果や音声・画像データなどを研究資源として活用できる体制を整えるとともに、AIの深層学習機能を用いるなどして、それらを能動的・横断的に活用できる新しいDX研究手法を開拓する。

本構想では、重点的なテーマに関する研究とともに、情報収集や研究が進んでいない諸地域

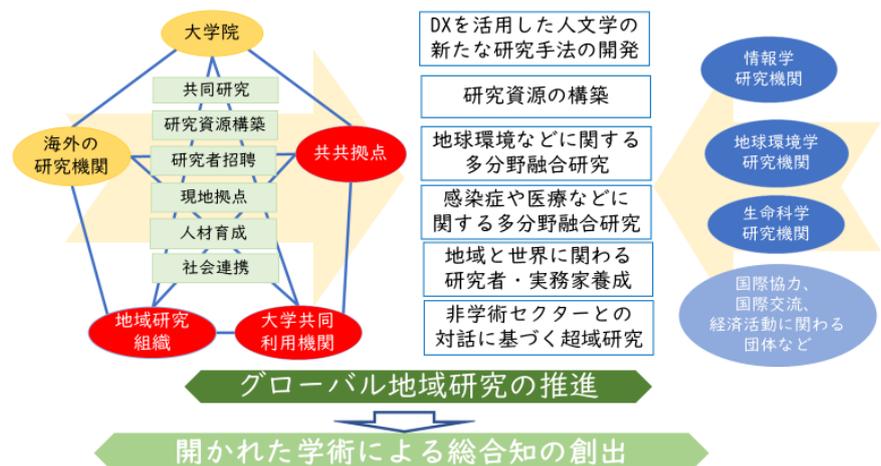


図1 事業概要イメージ図

の言語、文化、社会、歴史、政治、経済、環境などについても情報資源の構築と幅広い研究を推進する。

さらに、研究のみならず、政策立案、国際協力、国際交流、経済活動などの実務などに携わる幅広い地域研究人材を養成するために、大学院等との連携による教育体制を整える。

本構想は、関係諸機関の間のネットワークと DX を活用しつつ進めるものであり、その過程自体を広く世界と社会と共有することにより、開かれた学術の実現を目指す。

#### ⑤ 学術的な意義

本構想は、長期にわたり、直接に観察し正確かつ詳細な知識を得てきた地域研究の成果に加え、言語情報や空間地理情報、気候変動データなどの研究資源の共有化と活用を進め、人文社会科学を含む多くの分野の DX を図る。

また、様々な課題に関するネットワークを形成し、相互に繋げ、持続的な取り組みを行うことにより、今後の教育、双方向的な学術と社会の新たな在り方を示す先例ともなる。

#### ⑥ 国内外の研究動向と当該構想の位置付け

諸地域における生態・環境・医療等の分野の研究は蓄積されているものの、グローバルと地域の相互連関という視点からの研究は、まだ組織的には行われていない。本構想は、これらの研究成果を継承しつつ、グローバルと地域の相互連関について全世界的視野において捉える新しい取り組みである。また、本構想では、情報量が少なく理解が非常に不足している地域や特定の課題に留意し、基礎的な研究を幅広く行う。

デジタル技術の活用は、人文学の諸分野では緒に就いたばかりであり、その先鞭をつけた欧米においても、欧米の主要言語の文献資料のデジタル化と画像資料の活用が主たる部分である。本構想では、とりわけアジア地域の多様な文字、言語の資料の研究資源化を進め、また、音声・画像をデジタル化し、AI による画像認識の技術開発を進めることにより、新たな研究の地平を切り拓く。

#### ⑦ 社会的価値

国内社会の多文化共生を進める上でも、国際社会での活動の拡大を目指す上でも、世界諸地域の「他者」に関する理解は不可欠である。同時に、価値の多元性についての理解を進めることはきわめて重要であり、様々な活動を国際的に展開する上で、避けて通ることはできない。世界諸地域のその動態に関する研究は、環境、公正な社会など、17 の SDGs すべての活動に係わる基盤を成す。また、世界の諸地域に関する知的営為の成果を誰もが利用しうる形で集積し、AI 等の技術によって人文社会的なデジタルデータを処理・活用することは、他の知的分野や産業分野に応用しうる可能性を持つものである。

#### ⑧ 実施計画等について

【実施計画】〔1 年次〕運営体制：中核拠点 NW 形成；人材養成、研究資源、研究推進、社会共創の NW 形成；人材養成：教育資源の把握；研究資源：資源化計画策定、現地拠点活用計画策定；研究推進：重点計画策定；社会共創：連携事業計画策定 〔2 年次〕研究資源：研究資源化開始、DX 研究手法開発開始；研究推進：重点研究開始；社会共創：連携事業開始 〔3－4 年次〕人材養成：教育プログラム一部試行；研究資源：現地拠点の共同利用開始、DX を活用した研究の開始 〔5 年次〕全事項：運営体制ならびに活動の評価；〔6 年次〕全事項：評価に基づく体制・活動の見直し 〔7－9 年次〕全事項：活動の継続 〔10 年次〕全事項：第二フェーズに向けた計画策定

【実施機関】地域研究に関連する共同利用や共同研究を推進してきた機関を中核とし、研究テーマや地域、研究資源の構築、人材養成、社会連携といった機能に応じて、機関・組織間のネットワークを繋げる。2004 年に設立された地域研究コンソーシアム (JCAS) は、研究機関、教育組織、学会、政府系研究機関、政府系国際交流団体、NGO などによる緩やかなネットワークであり、JCAS の参加機関が本構想で重要な役割を果たす。

地域研究は、人々、文化、社会の多様性については特に高い関心を抱いており、本構想の実施に当たっても、多様性を積極的に取り入れた研究や事業に取り組む。

【総経費】38.7 億円 〔内訳：人件費：3.5 億円（教授 3 名、URA 16 名）；デジタル化経費：6 億円；多分野融合共同研究実施経費：9 億円；現地拠点整備・共同利用化経費：8 億円；教育プログラム開発：0.8 億円；管理運営費：1.8 億円〕

#### ⑨ 連絡先

木部 暢子（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構）